



るつ記記念基金だより

シエロから (1990年度奨学生、社会福祉専攻) — My Story, My Life —



奨学生採用時の筆者

はじめに

私は1990年から1994年までの間、奨学生の支援がなければ、ケソン市のセントジョセフカレッジで社会福祉学の学士号を取得するための大学生活がどのようになったのか想像もつきません。当時の生活は容易ではありませんでしたが、私は卒業でき社会福祉士になりました。皆さまの支援がなければ、今の私にはなれなかったと言えます。

1995年～

私のキャリアは1995年に始まり、社会福祉開発省 (DSWD) 地域フィールドオフィスに入職し、特にオーロラ地区の辺鄙な自治体でのコミュニティオーガナイザーとして働きました。その初期の年には、草の根コミュニティと地方自治体と密接に協力しました。そこでは2003年には社会福祉開発機関 (SWDA) の登録、ライセンス、認証の申請を担当し、若者、障害者、高齢者を対象としたプログラムの窓口となりました。それらの経験から、現場での課題や基準を遵守するための組織の苦労、資源のギャップ、そして脆弱な人々が適切なケアを受けられるようにするための政府の重要な役割について明確な理解を得ることができました。

シエロはフィリピン政府の社会福祉部門でキャリアを積み、その実力と実績から、現在、高位の責任ある立場で活躍されています。るつ記記念基金委員会からの希望に応えてくださいまして「My Story, My Life」と題して、ご自身のこれまでとこれからを寄稿してくださいました。

(委員会の責任で原稿の割愛、編集調整等々をさせていただきました。)

2008年～2018年

2008年に、私は社会福祉開発機関 (DSWD) 中央事務所に移りました。このフィールドワークから全国規制への移行により、私の責任が拡大しました。認定機関の監視、登録およびライセンスの支援、現場事務所への技術支援、そして訴訟関連のケースを扱うソーシャルワーカーの支援などです。私はまた、行政側のガイドラインやその基盤を強化する手助けもしました。

2008年から2018年の間、私は政策レビュー、観測・監視、利害関係者との共働のスキルを磨きました。そこでは社会福祉機関が直面する現実への思いやりと厳格な要件のバランスを取ることを学びました。

2018年～現在

その後の数年間、私は監督的および戦略的な役割を担い、2024年には、福祉担当官となり基準遵守部門の責任者になりました。そして、現在、私はその部門の長として責任は大幅に増え、全国の社会福祉開発機関 (SWDA) ネットワークが最高水準を維持すべき責任を負うチームを率いています。

【次頁へ】

ご挨拶

わたしたちの父なる神と御子イエス・キリストから、恵みと平安とが皆々様の上に豊かにありますように。

まず、皆様に悲しいお知らせをお伝えしなければなりません。藤崎るつ記さんの御尊父であられ、日立教会を長年牧会された藤崎信牧師が、4月11日に98歳で召天されました。葬儀は、4月22日に日本基督教団愛泉教会で執り行われましたが、それに先立って日立教会では、葬儀の2日前の復活祭の礼拝の中で召天記念の祈りの時をもち、礼拝後の愛餐会で藤崎牧師との思い出を語り合う時をもちました。御遺族の方々の上に天来の慰めをお祈り申し上げます。

今年度も、皆々様の篤き祈りの込められたご献金により、ノートルダム・ダジヤンガス大学とシリマン大学神学部の奨学生に支援することができました。この活動にあたり、チャイルド・ファンド・ジャパン理事の松浦宏二様、日本聖書神学校校長の神保望先生、同校教務部長代行の荒瀬牧彦先生のお助けを頂きました。皆々様のお支えとお祈りに心より御礼申し上げます。

今後とも本基金をお覚え下さり、お支えとお祈りのほど、何卒お願い申し上げます。皆々様の上に、主なる神からの祝福が豊かにありますように。



日本キリスト教団
日立教会・牧師
なりた あきのぶ
成田 頤靖

【前頁から】

この現在の仕事には次のようなものがあります。

- ① 法令順守・規範管理部門の運営監視
- ② 評価報告書のレビューとコメント提供・協議
- ③ 技術作業グループでの部門の代表
- ④ 規制サービスに関する専門支援者の役割
- ⑤ スタッフの監督と若手ソーシャルワーカーの指導
- ⑥ 実務ギャップの評価特定と政策改善を提言等

【私の価値観へのコミットメント】

私の個人的および専門的な旅を結びつけるものが一つあるとすれば、それは私のすべての決定を導く価値観へのコミットメント（責任ある関与）です。

- ① 誠実さ；難しい時でも正しいことをする
- ② おもいやり；すべての政策の背後には実在の人間がいることを忘れない
- ③ サービス；人々の生活を向上させるために時間と努力を捧げる
- ④ 家族；自分の最大の役割が妻であり母であることを常に心に留めておく
- ⑤ 学び；成長し続け、より良くなるために努力し続けること

【部門長として、女性として】

部門長としての旅を続ける中で、私は前方に多くのチャンスを見ています。システムや政策を改善するだけでなく、フィリピンの社会福祉行政の未来を形作るためのチャンスです。私の希望は、

法令や社会規範順守をより効率的で透明性があり、影響力のあるものにする実践を制度化し、機関がよりよくサービスを提供し、コミュニティが成長できるようにすることです。

同時に、私は個人的な目標をも楽しみにしています。最年長の娘が医師としての仕事を始めるのを見守り、息子の土木工学の指導をし、最も若い子供が自分の夢を追い求めるのを支援することです。

【My Story, My Life】

振り返ると、私の挑戦的で充実した人生が見えます。現場での初期の日々から現在の部長までの役割まで、私は奉仕、誠実、愛に満ちた人生を生きることを心がけてきました。その傍ら、私の最大の誇りと喜びの源である家族をも築いてきました。これは私の物語です。与えることを選び、思いやりを持ってリードし続け、とりわけ、心の中では妻であり母である一人のるつ記記念基金奨学生の物語です。

【謝辞】

何よりも、私は学生としての最も重要な時期に私を信じてくださったるつ記記念基金に心から感謝しています。皆さまの寛大さは私の教育の方向を変えるだけでなく、今日の私を形作るものでした。私は、基金の長きにわたる思いやりと奉仕の遺産を称えるために、私の奉仕、成果、そして他者への奉仕にコミット（関与）する生涯を捧げます。

（2025年9月14日）

追悼 藤崎信牧師召天 (2025年4月11日)



基金創設30周年記念礼拝説教 (2013年11月19日(日)、日立教会にて)

藤崎るつ記さんのお父様、藤崎信牧師は次男の悦児さんご一家に見守られ、埼玉県加須市の特別養護老人ホーム愛泉苑にて安らかに召天されました。98歳のご生涯でした。

葬儀に際しまして寄せられましたメッセージの中から、在フィリピン元奨学生シエロ(巻頭言参照)からのメッセージをご紹介いたします。

藤崎信先生のご逝去に対し、るつ記記念基金につながるすべてのご家族の皆様へ心からのお悔やみを申し上げます。

先生の抱かれたビジョン、思いやり、そして他者への搖るがない献身の姿勢は、私を含めた多くの人々の人生に深いインパクトを与えるました。るつ記記念基金からのご支援を感謝をもつて受け止めている奨学生として、先生がそのお仕事を通して培つてこられた寛容さと希望を、私はいつまでも忘れず光栄に感じています

私のような恵まれない境遇にいた子どもたちへの先生の教育へのコミットメント(責任ある関与)は、私たちの前に閉ざされていた扉を開けてくれました。先生と皆さまのおかげで、私は大学教育を修めることができ、私の誇りとする未来を創ることができました。先生が残されたレガシー(遺産)は、先生からいただいたご親切に感銘を受けた私たちすべての心に生き続けるでしょう。

先生の思い出をめぐる愛と尊敬の中で、皆さまの心も休まることができますように。

深い共感と感謝の思いを込めて

2025年4月25日
シエロ

2025年度新奨学生 (シリマン大学3年生)

今年度は観光やマリンスポーツで有名なボホール島出身の3年生の神学生が2名採用されました。多才な意欲に燃える神学生たちに自己紹介していただきます。

アイレン



私は牧会活動を専攻する学士課程の3年生です。若い頃から教会に奉仕することへの強い情熱があり、この使命を追い求めました。学問の旅を通じて、私は学問的にも靈的にも成長することを約束します。又、教会と地域社会に奉仕するために自分の知識と情熱を効果的に活かすことを楽しみにしています。私を皆さまの奨学生の一人にしてください、ありがとうございます。神が引き続き皆さまを豊かに祝福して下さいますように。

プレシャス



父は農夫、母は専業主婦で、彼らは私に忍耐、質素、そしてコミュニティの変革力への感謝の念を育んでくれました。

教室を超えて、私はある劇団のアクティブなメンバーです。この劇団は信仰、正義、奉仕のテーマを批判的に扱い教会奉仕者大会にも参加しています。このプラットフォームを通じて、私は芸術と靈性の交差点を探求し、パフォーマンスを通して他の教会奉仕者や信者を鼓舞し、励ます方法として利用しています。

又、ボホール協議会の学生として、私は周縁化されたコミュニティに奉仕し、礼拝や交わりのために包括的で思いやりのある空間を育むことにも情熱を注いでいます。

奨学生から

①ノートルダム・ダジヤンガス大学

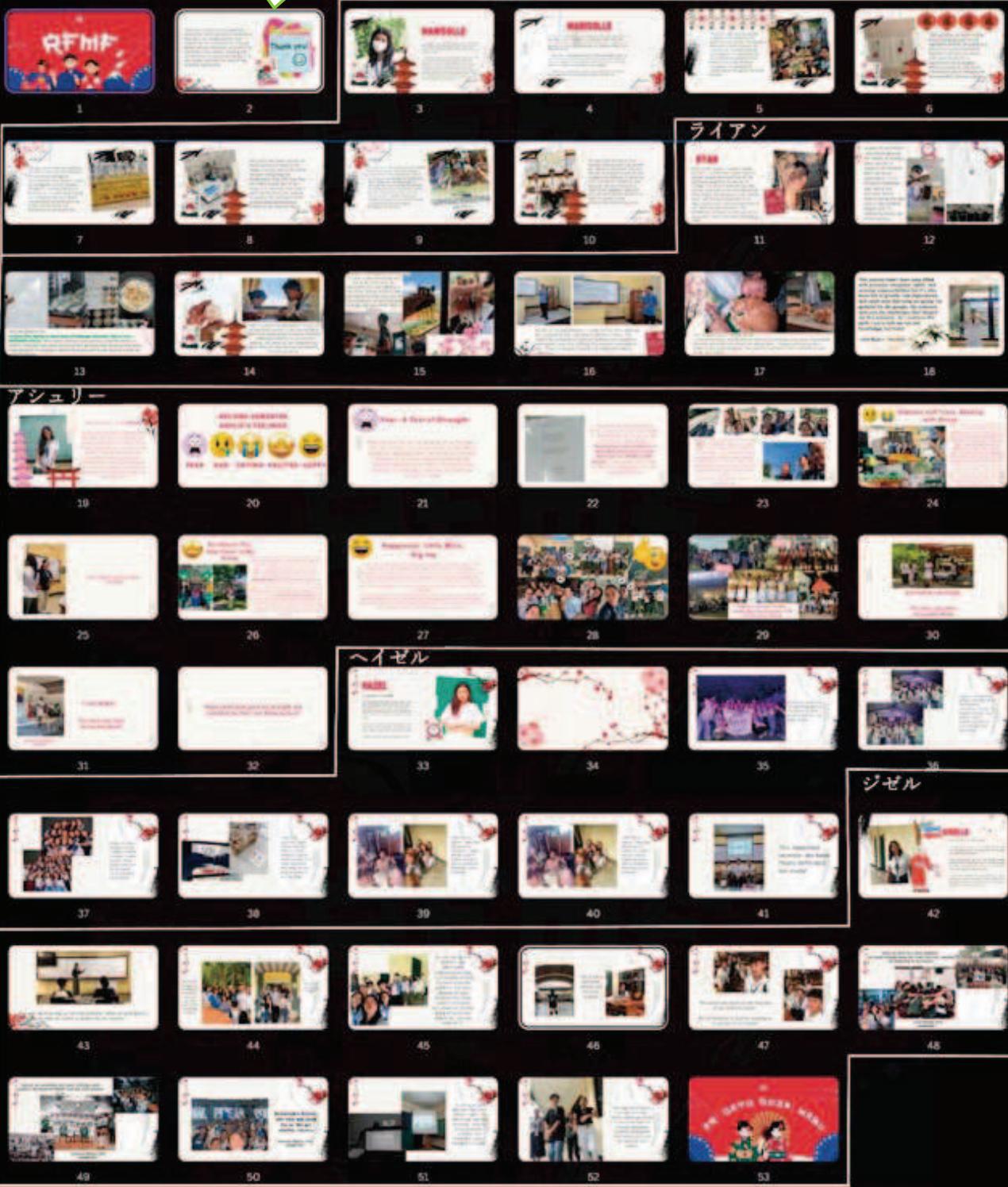
感謝（全員から）

奨学生をありがとうございます。私たちの大学生活の大きな支えとなりました。経済的な支えだけでなく学業の原動力ともなりました。皆様の思いに報いるよう一層努力してまいります。

大学暦2024-2025の年次報告を学期毎に頂戴しました。5名の奨学生みずから各々の活動状況を53枚に及ぶプレゼン資料にまとめて報告してくださっています。このうち2024-2025年度後期分としての報告の全体イメージを紹介します。（各ページの詳細は、今年11月16日に開催される記念集会にてご紹介します。）

親愛なるRFMFの皆様へ

マリソール



奨学生からのメッセージ

- ・奨学生の皆さんと一緒に2024-2025年度の後期は学業が大変だったが頑張ったようです。
- ・大変だった理由の一つは、3年次から4年生に進級するための専門として研究論文をまとめることが求められていて、これに注力する必要があつたためです。
- ・るつ記念基金を通しての皆様の祈りとお支えに感謝を寄せています。
(左の53表の中から各奨学生の総括メッセージの頁を拡大表示し和訳しました。)

 <p>ライアン</p> <p>MY NAME IS LIAN. I STUDIED IN JAPAN FOR 10 MONTHS. I WOULD LIKE TO GIVE THANKS TO JAPAN FRIENDS MEMORIAL FUND FOR THE CONTINUED SUPPORT IN MY JOURNEY TO SUCCESS. I AM VERY GRATEFUL FOR YOUR SUPPORT, ESPECIALLY AS THE PRACTICAL AUTHOR OF OUR THESIS. THE PRESSURE IS REAL, WITH SO MANY TASKS PILING UP, ESPECIALLY IN MY THESIS SUBMISSION THAT I AM LOOKING FORWARD WITH BOTH EXCITEMENT AND APPREHENSION. THE SUPPORT OF MY COMMITTEE TO MOTIVATE ME TO DO MY BEST, EVEN IN THE MOST CHALLENGING TIMES.</p>	<p>教育学部・中等教育一科学 (BSED-SCIENCE) 専攻3年です。この後期は、特に論文の筆頭執筆者として非常に大変でした。課題が山積みで特に専門科目では大きなプレッシャーですが、信念と決意を持って前進しています。この奨学金で、最善を尽くすよう励まされています。</p>
 <p>アシュリー</p> <p>THIS SECOND SEMESTER OF 2024-2025 HAS BEEN THE MOST EMOTIONALLY AND ACademically INTENSE CHAPTER OF MY STUDYING JOURNEY IN JAPAN. AS A THIRD YEAR STUDENT, I ENCOUNTERED BOTH THE ACADEMIC CHALLENGE AND THE MOST TRANSFORMATIVE LEARNING EXPERIENCE OF MY LIFE. WITH YOUR SUPPORT, I FOUNDED EACH CHALLENGE WITH A STRONG, WISE, AND DETERMINED ATTITUDE.</p>	<p>教育学部・初等教育課程3年生として、この後期は、精神的にも学業面でも大変な時でした。特に大学4年生に進むための鍵となる論文が大変でした。「自閉症児のための初等数学技能指導教材の開発と検証」また、自分を変える学びの経験の両方にも直面しました。しかし、それぞれの課題に立ち向かえたと思います。</p>
 <p>ヘイゼル</p> <p>THIS SEMESTER HAS BEEN SO MUCH OF A CHALLENGE, BUT I HAVE LEARNED SO MUCH AND MADE SO MANY FRIENDS. I AM SO GRATEFUL FOR YOUR SUPPORT, AS IT HAS BEEN A MAJOR SOURCE OF MOTIVATION AND SUPPORT.</p>	<p>保健科学部・医療技術3年生。今学期は本当に厳しく、これまでで最も大変な学期でした。しかし今年は実り多い年でした。互いに支え合い助け合ってくれた人々のおかげだと思います。このプレゼントで、私の日常をお見せします。一緒に楽しんでご覧いただければ幸いです！</p>
 <p>ジゼル</p> <p>THIS SEMESTER HAS BEEN SO MUCH OF A CHALLENGE, BUT I HAVE LEARNED SO MUCH AND MADE SO MANY FRIENDS. I AM SO GRATEFUL FOR YOUR SUPPORT, AS IT HAS BEEN A MAJOR SOURCE OF MOTIVATION AND SUPPORT.</p>	<p>教育学部・体育教育学3年生、同時に学生アスリートでもあります。皆様のご支援は、私の肩から大きな重荷を下ろしてくれただけでなく、より強い決意を持って夢を追いかけるための希望とモチベーションを与えてくれました。皆様のご厚意に心から感謝し、努力、献身、そして誠実さを持って取り組んでいく決意です。PRISAA2025 (私学アスレチック大会) で全国優勝</p>

②シリマン大学神学部

全員から年次報告をいただきましたが、現在在学中で地方の教会でインターンシップ^(注1)中のケセドと、今年卒業し牧師任職式を終えたアビゲイルからのメッセージ抄録をお届けします。

ケセド(2024年度奨学生)：インターンシップ^(注1)報告



こんにちは、日立ファミリー！

皆さまに喜びと深い感謝の気持ちとともに、私の近況をお伝えします。今年は私の旅の中で重要な節目となり正式にインターンシップに入りました。2025年7月13日、私はフィリピン、ミサミス・オリエンタルのUCCP^(注2)ラグインディンで正式に任命されました。この瞬間は、私の学問および牧師生活における新しい章の始まりだけでなく、皆さまの心温まる支援が私を今日の場所に導いてくれた証でもあります。これまでのインターンシップの経験は、挑戦的でありながらも豊かなものでした。毎日、私はこれまでの学びを活かして知識とスキルを適用し、信仰、人格、他者への奉仕において成長しているのを感じています。私は心の中に、自分に託された機会や祝福において良き羊飼いでありたいという希望を抱いています。心の底から、私を信じ、支え、この旅を共に歩んでくださいましてありがとうございます。

感謝と喜びを込めて、ケセド

アビゲイル(2024年度卒業)：牧師任職報告



主イエス・キリストの名のもとに平和のご挨拶を申し上げます。

2021-2022年度の第2学期に最初に受け取った奨学金に対する心からの感謝の気持ちを表すために筆を取りました。皆さまの寛大さと思いやりのおかげで、私は神学校での学業を続け、修了することができました。今年の5月、神の恵みにより、私は神学校を卒業し、現在は私の州のUCCP教会の一つで運営管理牧師として任職しています。私の人生と奉仕におけるこのマイルストーンは、皆さまの支援と奨学金プログラムの祝福がなければ実現しなかつたでしょう。確かに、皆さまは私の旅だけでなく、現在さまざまな分野で奉仕している多くの学生の人生を形作る神の器でした。私は本当にこの奨学金に感謝していますし、皆さまの教会とその取り組みを祈りの中に持ち続けています。常に真実な主が、皆さまが多くの人々の祝福の道となるように、豊かに祝福してくださることを願っています。

心からの敬意を表して、アビゲイル

(注1) インターンシップ：在学中に必須とされる地方教会での実習プログラム。

(注2) UCCP：フィリピン合同教会の略称 (United Church of Christ in the Philippines)

奨学生の現状(心こめて皆さんを応援します)

- * 今年度も11名の大学生に160万円の奨学金を贈呈しました。多くの皆さまの温かいご支援で、基金創設以来42年にわたり、累計152名を支援し奨学金累計は3714万円に達しました。
- * 奨学生の内訳は、ネグロス島のドゥマゲッティ市にあるシリマン大学神学生6名、ミンダナオ島ジェネラルサントス市にあるノートルダム・ダジャンガス大学の5名です。
- * 今年度奨学生11名を以下に紹介します。

【凡例】

採用年度

名前(専攻)

島別奨学生分布

():2025年10月までの累計人員、合計152人。



2025年度



アイレン(神学)



プレシャス(神学)



ジェニフェ(神学)



ケセド(神学)



ジョニー(神学)



ジェイムス(神学)

2024年度



ジョン(生物科学)



マリソーレ(医療技術)



ヘイゼル(医療技術)



アシュリー(初等教育学)

2023年度



ジゼル(体育学)

◎お陰様で卒業いたしました。

2021年度のアビゲイルとジェフリーが卒業しそれの任地での奉仕を始めています。お二人から皆さまのご支援に対する感謝のメッセージをいただきました。(6ページにアビゲイルのメッセージ抄録を掲載)

インフォメーション

るつ記記念基金委員会

チャイルド・ファンド・ジャパン 松浦宏二理事を迎えて



2025年6月15日(日)、
日立教会にて
右から5人目が松浦氏
今後の進め方などご指導、
ご意見を賜りました。

特定非営利活動法人 チャイルド・ファンド・ジャパン 創設50周年記念誌・寄稿

るつ記記念基金にたいする永年にわたるご指導に対しまして、心からの感謝と敬意をこめて「優しく紡がれて」を寄稿いたしました。課題の多い時代に「希望」を指し示す同法人のこれからのお働きとますますのご発展をお祈り申し上げます。

優しく紡がれて

日本キリスト教団日立教会
るつ記記念基金(RFMF)委員会
委員長 和田 直

1982年、大学の夏休みで帰省中だった藤崎るつ記さんが、教会の女性グループにアジア旅行の体験と貧しい人々の状況を報告し、国際精神里親運動部(CCWA)のフィリピンでの活動を支えてほしいと、熱心にアピールしました。その結果、4つの支援グループが誕生し、CCWAから提供された里子の写真を見たり、当時ははるか遠くに思えたフィリピンの状況を学びあつたりと、それぞれの支援活動が始まりました。

そして翌1983年、るつ記さんがフィリピン・ボトランの海でおぼれた二人の友人を救おうとして命を失った年の秋、CCWAのご指導の下、教会に「るつ記記念基金」が誕生。経済的に困難なため

に、大学教育を断念せざるを得ない青年たちへの奨学金支援が始まりました。その後、年間1人から始まった奨学生の増員、さらにフィリピン訪問交流や日本研修プログラムの実施等々、2023年度にこの制度が終了するまで、39年間にわたり、地方の小さな教会の目を世界へと開き、自立して人々と共に生きるようにと導いてくださいました。2025年現在、支援奨学生累計は150名になりました。

1982年から始まる日立教会の物語はCCWA、チャイルド・ファンド・ジャパンの皆さんに優しく紡がれて今も続いている。

心からの感謝と敬意を込めて…、

「50周年おめでとうございます！」

2025年度るつ記記念基金 記念礼拝開催

開催要領は下記の通りです。
日立教員以外の皆様のご参加を歓迎いたします。

- ・日 時：2025年11月16日(日)
10時15分～11時30分
- ・場 所：日本キリスト教団日立教会
- ・講 師：日本聖書神学校校長
神保 望 牧師
- ・説教題：渴くことのない命に生きる
- ・情 報：
 - ①礼拝後の祝会（昼食会、会費無料）にも、どなたでもご自由にご参加ください。
 - ②お車でのご来場の際には教会駐車場をご利用ください。
 - ③事前に各種のご案内が可能です（道順、送迎等）

【会場案内】



編集後記

☆基金創設40周年を超えた今年も奨学生からの学びや活動の様子をお届けできました。フィリピン各地で学生たちが日々頑張っています。フィリピンにおける社会福祉の重要な役割を担うシエロさんから、皆様の支援がいかに若者の情熱を支え、その未来を切り開く原動力になったかを聞くことができました。皆様のご支援に感謝申し上げます。 (書記:青野友祐)

☆尊い献金をお捧げ頂いている支援者の皆様、関係者皆様のご尽力、本当にありがとうございます。奨学生の皆さんには数十年を経ても、それぞれの成長と活躍の中で、希望、信念、信仰、当基金への感謝を持ち続けてくださっています。藤崎信牧師を天上にお送りしましたが、私たちは基金を通して一粒の麦の豊かな実りをいただいています。これからも喜んで応援していきたいと思います。 (大内田春子)

☆フィリピンの大学年度2024-2025のRFMF奨学生の年次報告をシリマン大学神学部(SUDS)とノートルダム・ダジャンガス大学(NDDU)から頂戴しました。このうちNDDUからは奨学生自身の手で前期と後期それぞれ53枚ものスライド・ショーにして大学生活の様子と思いを伝えてくださっています。奨学生一人ひとりの学業に取り組む真摯な様子が伝わり、感動をもって拝見しました。今回はその一部をイメージとして要約して紹介していますが、ご支援くださっている皆様にもこの感動を共有して頂ければと願っています。 (ICT担当:金丸公春)

☆私がこの委員会に関わり始めてから3年ほどが経過しましたが、様々な方に支えられて、40年を越える歴史が紡がれてきたことを日々、実感するばかりです。基金だよりには、フィリピンの奨学生の方々のご活躍が記されていますが、以前、現地を訪問した際に交わる機会を与えられた人々のことが、懐かしく思い出されます。私のできることは僅かなものですが、年月に思いを馳せて、これからRFMFへの関わり方を考えたいと思います。 (副委員長:鈴木大智)

☆基金創設40年を超えて、奨学生だった皆様の成長というか、立派なお仕事とご家庭を築き上げられた事に感銘を受け、基金がこんなにも素晴らしい実りをもたらした事に感謝と驚きをかくせません。るつ記念基金奨学生だった皆様の今後のご活躍がますます楽しみです。会計担当者としては、唯々献金をお寄せ下さいました皆様に感謝申し上げます。(会計:菅原卓子)

☆ノートルダム・ダジャンガス大学の3年奨学生ライアンさんが、厳しい勉学の中で猫たちに癒される日々を綴った次の記事は印象的でした。「ささやかに聞こえるかもしれません」が、私の猫たち(写真)は本当に喜びの源です。疲れて帰宅しても、彼らを抱きしめるだけで心も脳も体も癒され、言葉では表せないほどの安らぎをもたらしてくれます。 (百瀬義広)



☆基金だより編集のためには、フィリピンからの英文レポートの和訳作業が必要です。私の場合ですと、メールで送られてきたものを最新版の翻訳ソフトに掛け、ほぼほぼの日本語訳を得るようにします。それに対して敬語や少々の翻訳が無理な単語や言い回しなどを見直し暫定版を得ます。この後、暫定版をパソコンに向かいぐちゃぐちゃしながら日本語にしていくようにし、そして不確かな箇所を委員会に掛けると三人の大学教授がアドバイスしてくださいます。そんな感じですが、結果として「原文の熱い感動がそのままに伝わればいいな!」といつも願っています。

(委員長:和田直)



るつ記念基金だより 第41号

2025年11月2日発行

編集:るつ記念基金委員会
発行:日本キリスト教団日立教会

〒317-0064 茨城県日立市神峰町4-14-7
URL <http://hitachi-church.justhpbjs.jp>
TEL 0294-21-4565 FAX 0294-23-3367
郵便振替 口座番号00300-9-15365
日本キリスト教団日立教会るつ記念基金